

# 市原市能満城跡・能満遺跡群

— 主要地方道五井本納線交通安全対策事業埋蔵文化財発掘調査報告書 —

令和元年11月

千葉県教育委員会

いち ほら し のう まん じょう あと      のう まん い せき ぐん

# 市原市能満城跡・能満遺跡群

— 主要地方道五井本納線交通安全対策事業埋蔵文化財発掘調査報告書 —





## 序 文

いにしえより温暖な気候に恵まれた千葉県には、先人たちの生活の痕跡などが埋蔵文化財包蔵地(遺跡)として数多く残されています。これらの埋蔵文化財は県民共有の財産として、地域の歴史や文化の解明に欠かすことのできない貴重なものです。

千葉県教育委員会は、埋蔵文化財の調査研究・文化財保護思想の普及などを目的としたこれまでの諸活動に加え、平成25年度から千葉県が行う開発事業にかかる発掘調査や調査成果の整理、報告書の刊行について直接実施することとしました。

本書は、千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第32集として、主要地方道五井本納線交通安全対策事業に伴って実施した市原市能満城跡・能満遺跡群の発掘調査報告書です。今回の調査では、中世前期の遺物が出土し、千葉県では類例の少ない時代の様相を知る上で貴重な資料を得ることができました。

刊行に当たり、本書が学術資料としてだけでなく、郷土の歴史に対する興味を深めるための資料として多くの方々に広く活用されることを期待しております。

最後に、発掘調査から整理作業を通じ、地元の方々をはじめとする関係者の皆様や関係諸機関には多大な御協力をいただきました。心から感謝申し上げます。

令和元年11月

千葉県教育庁教育振興部  
文化財課長 大森 けい子



## 凡 例

- 1 本書は、千葉県県土整備部市原土木事務所による主要地方道五井本納線交通安全対策事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 本書は、下記の遺跡を取録したものである。  
能満城跡・能満遺跡群 市原市能満1,125番地地先（遺跡コード219-098）
- 3 千葉県県土整備部の依頼を受け、千葉県教育庁教育振興部文化財課が令和元年度に発掘調査及び整理作業を実施した。
- 4 調査組織及び発掘調査と整理作業の期間・担当者等は、第1章第1節に記した。
- 5 本書の執筆・編集は、主任上席文化財主事 蜂屋孝之が行った。
- 6 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、市原市教育委員会、千葉県県土整備部道路環境課、同市原土木事務所ほか多くの方々から御指導、御協力を得た。
- 7 中世土器の分類は、市原市教育委員会 櫻井敦史氏に協力をいただいた。
- 8 本書で使用した地図の座標値は、日本測地系に基づく平面直角座標で、図面の方位はすべて座標北である。
- 9 本書で使用した地形図は下記の通りである。  
第1図 国土地理院発行 1/25,000 地形図「五井」・「蘇我」・「姉崎」・「海士有木」を編集  
第2図 市原市発行 1/2,500 市原市管内図を編集
- 10 図版1の航空写真は、京葉測量株式会社による昭和53年撮影のものを使用した。

## 本文目次

|              |   |
|--------------|---|
| 第1章 はじめに     | 1 |
| 第1節 調査の概要    | 1 |
| 1 事業の経緯と経過   | 1 |
| 2 調査の方法      | 1 |
| 第2節 遺跡の位置と環境 | 3 |
| 1 遺跡の位置と地形   | 3 |
| 2 遺跡の歴史的環境   | 3 |
| 第2章 調査の成果    | 6 |
| 第1節 概要       | 6 |
| 第2節 出土遺物     | 6 |

報告書抄録

## 挿図目次

|               |   |                   |   |
|---------------|---|-------------------|---|
| 第1図 調査地点と周辺遺跡 | 2 | 第5図 トレンチ配置及び土層断面図 | 7 |
| 第2図 調査対象範囲    | 4 | 第6図 出土遺物(1)       | 8 |
| 第3図 調査履歴      | 5 | 第7図 出土遺物(2)       | 9 |
| 第4図 基本土層図     | 6 |                   |   |

## 表目次

|                     |   |             |   |
|---------------------|---|-------------|---|
| 第1表 能満城跡・能満遺跡群調査成果等 | 5 | 第2表 出土土器集計表 | 8 |
|---------------------|---|-------------|---|

## 図版目次

|                       |                   |
|-----------------------|-------------------|
| 図版1 遺跡周辺の航空写真         | 図版3 調査トレンチ・堆積土の状況 |
| 図版2 調査地点遠景・トレンチ内の調査風景 | 図版4 堆積土層・出土遺物     |

# 第1章 はじめに

## 第1節 調査の概要

### 1 事業の経緯と経過

主要地方道五井本納線は、市原市村上の国道297号の交差点を起点とし、茂原市本納の国道128号との交差点を終点とする市原市から茂原市を結ぶ路線である。これまでに五井本納線が通る市原市郡本地区の交通安全対策工事などによる道路整備が進められてきた。今回は市原市能満地区において交通安全対策の一環として工事が行われることとなった。

この事業の実施にあたり、平成31年2月に千葉県市原土木事務所長から事業地内における「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」の照会文書が千葉県教育委員会へ提出された。千葉県教育委員会では現地踏査等の結果を踏まえ、平成31年3月に事業計画地内に埋蔵文化財包蔵地(能満城跡・能満遺跡群)が存在する旨の回答を行った。

この回答を受けて、その取扱いについて関係諸機関で協議を重ねた結果、事業の性格上やむを得ず記録保存の措置を講ずることとなり、千葉県教育委員会が発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は、令和元年6月に工事範囲240㎡を対象とし、かつての道路整備に伴い法面となっている部分を除く範囲について調査を実施し、その後同年7月に整理作業を行った。調査組織及び担当者・期間・内容は次のとおりである。

#### 発掘調査

千葉県教育庁教育振興部文化財課  
文化財課長 大森けい子 発掘調査班長 大内千年  
担当者 主任上席文化財主事 蜂屋孝之  
実施期間 令和元年6月3日～6月14日  
内容 確認調査 上層34㎡/240㎡

#### 整理作業

担当者 主任上席文化財主事 蜂屋孝之  
実施期間 令和元年7月1日～8月16日  
内容 水洗・注記～報告書刊行

### 2 調査の方法

**発掘調査** 発掘調査にあたっては、従来公共座標に基づいてグリッドの設定を行うところだが、今回は、調査可能な部分が狭長で面積も限られることから、グリッドの設定を行わずに調査を実施した。なお、現地では座標値を使用した測量を実施している。上層の確認調査は、トレンチ1か所を設定し、表土を重機により掘削、除去した後に調査を開始した。遺物の出土状況を確認しながら掘削を進め、地山となる立川ローム面に達した段階で遺構の有無を確認した。調査地点は、東に向かう緩斜面のため、東側ほど黒色土の堆積が厚くなり、トレンチの東側約3分の1は表土から地山までの深度が約1.7mを超えて危険なため、このエリアについては地山となる立川ローム面までの掘削を断念した。





- 1 調査地点 2 能満城跡 3 能満遺跡群 4 郡本遺跡群 5 市原城跡 6 白船城跡  
 7 市原条理制遺跡 8 山木城跡 9 千草山遺跡 10 上総国分僧寺跡 11 上総国分尼寺跡

第1図 調査地点と周辺遺跡 (1/25,000)

旧石器時代の下層の確認調査については、立川ロームの掘削深度に対して十分な面積が確保できないことから、調査不能と判断した。記録作成は、従来からの平板測量による調査範囲図及び土層断面図の作成を行った。写真撮影はデジタルカメラにより実施した。

**整理作業** 整理作業は出土遺物の水洗・注記作業を行った後、種別・器種分類及び、実測・拓本作業を行った。発掘調査で作成した調査図面・写真等の記録整理の後、挿図・写真図版原図を作成し、トレースや写真補正等を行った。その後、原稿執筆・編集・校正作業を経て、報告書刊行に至った。また、報告書編集集中に報告書に基づいた取納整理作業も併せて実施した。

## 第2節 遺跡の位置と環境

### 1 遺跡の位置と地形（第1図）

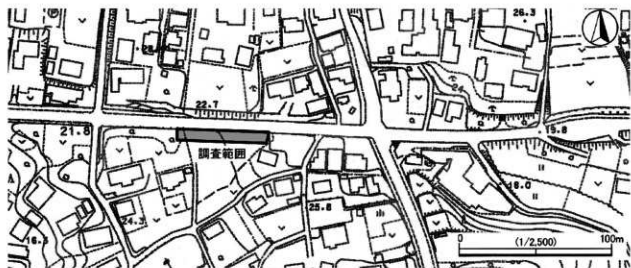
市原市は、千葉県のほぼ中央に位置し、東京湾を望む海浜部から下総丘陵を経てその奥部は上総丘陵に至る非常に長い市域となっている。中央を流れる養老川は、清澄山北東部の麻綿原高原を源とし総延長74kmの上総丘陵を縦断する河川である。

能満城跡・能満遺跡群が所在する台地は、通称「市原台地」と呼ばれる台地群の一角をなしており、山倉付近に源を有し東京湾に注ぐ新田川とその支流により樹枝状に開析された標高約31m～26mの広い台地である。谷底と台地との比高は10数mである。この台地は、中央で東西からの支谷の開析により大きく括れ、南北に分かれている。北側は手を広げたような台地の広がりを呈し、支谷による開析が奥深くまで及んでいる。その大半が能満城跡とされており、台地北側は緩傾斜となって新田川に臨んでいる。昭和までは、新田川の谷津はほぼ全城が水田として土地利用されていた。また、南側の台地は、南北に細長く平坦面が広がり、弥生時代以降の集落跡を主体としてみるとみられるが、これまでの調査歴はほとんどない。新田川は、今では平野部で都市下水路として流路が整備されている。市原市八幡を河口とし、古代の市原条里制のころから水量が少ないこともあって人工的に流路が改変されながら今日に至っている。

### 2 遺跡の歴史的環境（第2・3図）

本遺跡の調査は、平成11年度に市道の建設に伴う確認調査が実施されて以降、平成12年度、平成13年度、平成16年度に本調査が実施されており、弥生時代後期、古墳時代前期・後期の堅穴住居跡などのほか、15世紀前半期とみられる南北220m、東西150mの大規模な方形の区画溝の一部や掘立柱建物跡、方形土坑などの中世遺構群が検出されている（市原市文化財センター 2002・2003・2005）。また、個人住宅などの建設に伴う市内遺跡の調査も遺跡の北西部を中心に実施されており、その調査成果が報告されている。いずれも小規模な調査ではあるが、弥生時代後期の堅穴住居跡、古墳時代前期及び後期の堅穴住居跡・古墳、中世の区画溝や土坑などが検出されている（市原市教育委員会 2001・2006・2011・2012）。

以上のような調査履歴から、能満遺跡群の所在する台地には、弥生時代後期から古墳時代後期にかけての集落が展開していること、中世の遺構群によって壊されたこととみられる古墳の周溝跡も発見され、集落跡のほか、ある程度の規模の古墳群が存在することもわかってきた。これまでに古墳の存在が知られていなかったことから中世以降に当該地域の開発に伴って壊されてしまった可能性がある。また、台地上の日吉神社が「府中」を冠していることから、上総国府推定地の一つとしても注目を浴びており、能満台地の西側の谷津内に「甲田」の地名が残ること、谷の更に西隣の台地上に「古甲」の地名が残っていることから



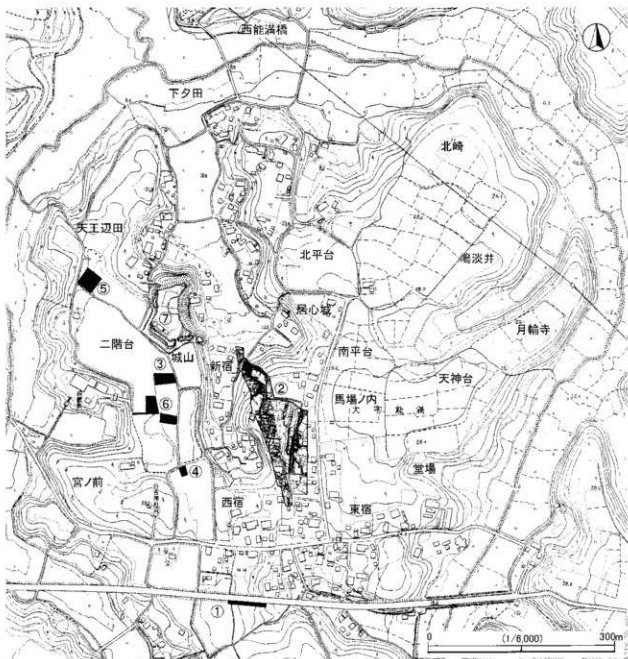
第2図 調査対象範囲

も、国府が所在した可能性もあるとされている。能満の台地上における中世遺構群は、市道の関連調査の成果から台地中央の「東宿」「西宿」地名が遺されている地域に集中しているとみられてきたが、小規模調査の成果ながら城山地区の能満城跡の主郭周辺にもその広がりがあるとみられる。従来、能満城跡の主郭とされている地区は、谷に突き出した台地を区画する規模の大きな土塁や空堀が明瞭で、単郭の簡単な構造とみられており、南東部の合横矢の構造からも16世紀代の可能性が高いとされている(小高 1999)。

今回の調査地点は、「西宿」という小字の地にあたり、出土土器から古瀬戸後期様式Ⅳ期の15世紀中葉を主体とし、16世紀前葉の遺物までであることから、「西宿」の周辺には能満城築城よりは古い時期の中世遺構群が濃密に分布していることは明らかである。隣接する郡本遺跡群は古くからの調査歴があるものの、中世国衙の状況を明確に示す遺構は見つかっておらず、市原郡衙や上総国府の実像は依然として判然としない(田所 1998)。また、新田川を下り平野部に至るまでには、市原城跡や白船城跡など16世紀代の戦国期の城跡が点在し、調査も行われているが、具体的な築城前後の様相は不明な点が多い。能満城跡の市道関連の調査成果は未報告のため詳細は不明だが、郡本遺跡群とともに古代末期以降の上総国衙に関連するエリアの解明が今後進むことを期待したい。

#### 参考文献

- 財団法人市原市文化財センター 2001「平成12年度 市原市内遺跡発掘調査報告」
- 財団法人市原市文化財センター 2002「第17回市原市文化財センター遺跡発表会要旨-平成13年度-」
- 財団法人市原市文化財センター 2003「市原市文化財センター年報-平成12年度-」
- 財団法人市原市文化財センター 2005「第20回市原市文化財センター遺跡発表会要旨-平成17年度-」
- 財団法人市原市文化財センター 2006「市原市文化財センター年報-平成17年度-」
- 市原市埋蔵文化財調査センター 2011「市原市能満遺跡群天王辺田地区」
- 市原市埋蔵文化財調査センター 2012「平成23年度 市原市内遺跡調査報告」
- 小高春雄 1999「能満城跡」『市原の城』
- 市原市教育委員会 1999「上総国府推定地歴史地理学的調査報告書」
- 田所 真 1998「12郡本遺跡群」『千葉県歴史資料編 中世1 考古資料』千葉県



第3図 調査履歴 ※第1表⑤の報告書第1図を加筆・修正

第1表 能満城跡・能満遺跡群調査成果等

| No | 調査年次 | 本調査成果等                                                                         | 文 献                                                |
|----|------|--------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|
| ①  | 2019 | 中世後期古瀬戸後期Ⅳ～大室1段階期を主体とする時期の遺物が出土                                                |                                                    |
|    | 2000 | 中世の地下式墓1基、溝1条ほか                                                                | 財団法人市原市文化財センター 2003「市原市文化財センター年報～平成12年度～」          |
| ②  | 2001 | 弥生時代後期方形周溝墓1基、古墳時代前期古墳1基・竪穴住居跡2軒、中世地下式墓1基・廻廊3条・溝多数・土坑多数ほか                      | 財団法人市原市文化財センター 2002「第17回市原市文化財センター遺跡発表会要旨～平成13年度～」 |
|    | 2004 | 弥生時代後期竪穴住居跡2軒、古墳時代前期竪穴住居跡3軒、古墳時代後期竪穴住居跡6軒、中世方形区画溝及びその内側に竪立建物3棟・柱穴多数・溝数条・方形土坑ほか | 財団法人市原市文化財センター 2005「第20回市原市文化財センター遺跡発表会要旨～平成17年度～」 |
| ③  | 2000 | 弥生時代後期竪穴住居跡3軒、古墳時代後期竪穴住居跡2軒ほか                                                  | 財団法人市原市文化財センター 2001「平成12年度 市原市内遺跡発掘調査報告」           |
| ④  | 2005 | 古墳時代前期竪穴住居跡1軒ほか                                                                | 財団法人市原市文化財センター 2006「市原市文化財センター年報～平成17年度～」          |
| ⑤  | 2009 | 弥生時代後期竪穴住居跡1軒、古墳時代後期古墳1基、中世区画溝1条・大型土坑1基ほか                                      | 市原市埋蔵文化財調査センター 2011「市原市能満遺跡群天王辺田地区」                |
| ⑥  | 2011 | 弥生時代後期竪穴住居跡1軒、古墳時代後期竪穴住居跡5軒、中世溝跡3条・土坑2基ほか                                      | 市原市埋蔵文化財調査センター 2012「平成23年度 市原市内遺跡調査報告」             |
| ⑦  |      | 能満城主郭跡                                                                         | 小高春雄 1999「能満城跡」『市原の城』                              |

## 第2章 調査の成果

### 第1節 概要

調査地点の堆積土の基本土層を第4図に示した。また、第5図にトレンチ位置図及びトレンチ内の土層断面図を示した。今回の発掘調査で検出した遺構は、皆無であった。しかし、遺物については、立川ローム(Ⅲ層)に至るまでの堆積土中から、中世後半を主体とするカワラケなどの遺物が出土している。各層位の内容は以下のとおりである。

I a層 表土：畑の耕作土である。部分的に下層深くまで達する。

I b層 褐色土：やや硬質、ローム粒・焼土粒を微量混入する。

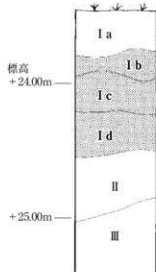
I c層 暗褐色土：硬質、暗褐色の硬い大小のブロックが多量に混入する。

I d層 黒褐色土：軟質、ローム粒・焼土粒を少量混入する。

Ⅱ層 暗黄褐色土：ロームが黒色土に均質に混入している。

Ⅲ層 立川ローム：いわゆるソフトロームだが、斜面の二次堆積ロームの可能性がある。

今回の調査地点は、標高+25.5m～+24.2mの東に向って下る緩斜面に位置している。第5図に示したトレンチ内の土層断面図のように、地山となる立川ローム面はトレンチの中央部から以東で急激に深くなり、東側から入り込む谷へと下っている。地山と考えられる層位は、二次堆積の可能性のあるソフトローム(Ⅲ層)であった。I b層・I c層・I d層の3層は中世遺物を包



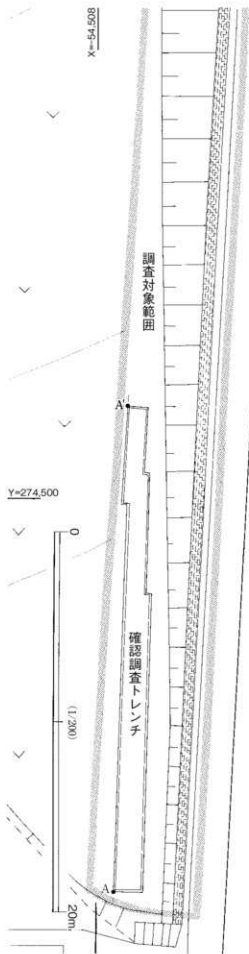
第4図 基本土層図(1/30)

含する。全体に黒色を呈し、20cm～30cmの層厚で、ゆるく東側に傾斜した堆積状況である。ごぼうの収穫時に使用するトレンチャーによる攪乱が、トレンチの全域でみられ、攪乱の中に含まれたゴミの内容から昭和50年代以降の攪乱であることが判明した。主にカワラケからなる中世遺物によって、各層の時期を決定できる状況ではなかったが、攪乱によるゴミの混入を除けば、近世以降の遺物が混在する状況ではなかった点で、中世に堆積した層位の可能性が残されている。調査時の所見としては、いずれの層からも散発的に遺物が出土し、集中する箇所は認められなかった。人為的な客土なのかどうかは判断しにくい。I c層が黒色の硬い大小の塊を多量に混入しており、その成因は不明で、人為的な要因の可能性が高いと思われる。掘削面積34㎡のトレンチ内から出土した中世遺物の出土量は、時期や器種の判断ができるものに限ると53点、551.6gで、千葉県内の中世遺物の㎡あたりの出現率としては、多いと言えるかもしれない。近隣に中世遺構群が存在している可能性を示唆している。

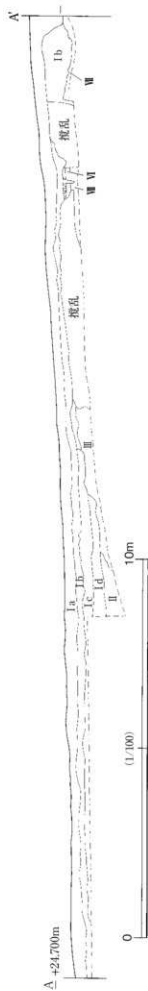
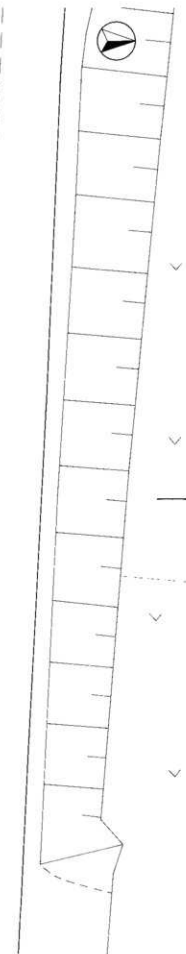
### 第2節 出土遺物(第6・7図)

出土した遺物は、ほぼ中世の遺物に限られている。器種と時期が判別できる資料に限り、第2表に集計した。瀬戸・美濃系陶器、常滑が若干含まれ、在地産のカワラケが主体となっている。この他に、縄文時代の叩石1点や中世と推測される砥石2点や火打石2点、銭貨1点などが出土している。

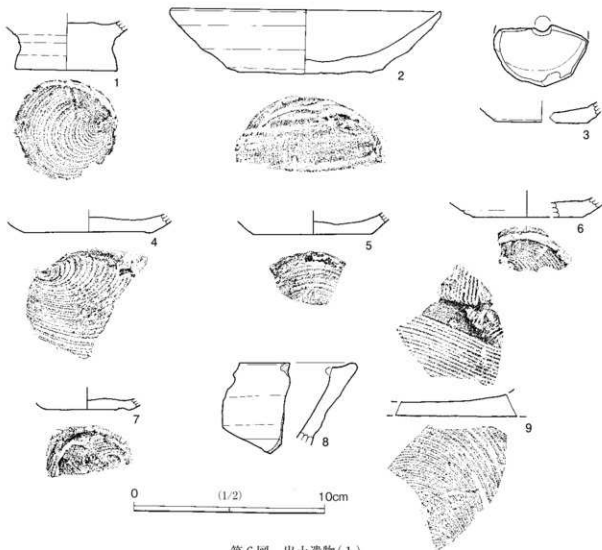
Iは在地系の柱状高台土器である。体部は失われている。高台は円筒状に立ち上がり1.9cmの高さがある。底面には明瞭な回転糸切痕を無調整で残している。体部内面には指によるナデが施されている。上総国分



主要地方道五井本納線



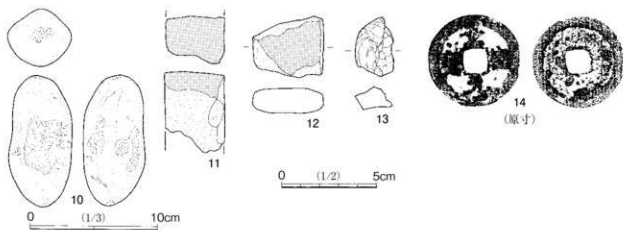
第5図 トレンチ配置及び土層断面図



第6図 出土遺物(1)

第2表 出土土器集計表

| 挿図 No. | 出土位置 | 産地       | 器種            | 型式              | 点数 | 重量(g) |
|--------|------|----------|---------------|-----------------|----|-------|
| 第6図 1  | トレンチ | 在地土器     | 柱状高台土器        | 上総国分僧寺Ⅲ～Ⅳ       | 1  | 87.9  |
| 第6図 2  | トレンチ | 在地土器     | カワラケ坏         | 古瀬戸後期Ⅳ(新)～大室1並行 | 1  | 66.3  |
| 第6図 3  | トレンチ | 在地土器     | カワラケ小型皿       | 古瀬戸後期Ⅳ(新)～大室1並行 | 1  | 12.5  |
| 第6図 4  | トレンチ | 在地土器     | カワラケ坏         | 古瀬戸後期Ⅳ(新)～大室1並行 | 1  | 21.1  |
| 第6図 5  | トレンチ | 在地土器     | カワラケ中型皿       | 古瀬戸後期Ⅳ(新)～大室1並行 | 1  | 11.6  |
| 第6図 6  | トレンチ | 在地土器     | カワラケ小型皿       | 古瀬戸後期Ⅳ(新)～大室1並行 | 1  | 10.4  |
| 第6図 7  | トレンチ | 在地土器     | カワラケ小型皿       | 古瀬戸後期Ⅳ(新)～大室1並行 | 1  | 7.4   |
| 第6図 8  | トレンチ | 瀬戸・美濃系陶器 | 掻鉢            | 古瀬戸後期Ⅳ(古)       | 1  | 15.2  |
| 第6図 9  | トレンチ | 瀬戸・美濃系陶器 | 掻鉢            | 古瀬戸後期Ⅳ(新)       | 1  | 37.0  |
|        | トレンチ | 瀬戸・美濃系陶器 | 掻鉢            | 古瀬戸後期Ⅳ～大室1      | 2  | 33.7  |
|        | トレンチ | —        | 伊勢型鍋          | 時期不明            | 2  | 27.0  |
|        | トレンチ | 瀬戸・美濃系陶器 | 平碗・天目茶碗・粗母懷窓か | 古瀬戸後期様式         | 3  | 6.5   |
|        | トレンチ | 在地土器     | 内耳鍋           | 時期不明            | 1  | 13.0  |
|        | トレンチ | 在地系須恵質土器 | 内耳鍋           | 時期不明            | 1  | 8.4   |
|        | トレンチ | 瀬戸・美濃系陶器 | 緑釉小皿          | 古瀬戸後期Ⅳ          | 2  | 5.8   |
|        | トレンチ | 常滑       | 甕             | 時期不明            | 2  | 41.7  |
|        | トレンチ | 在地土器     | カワラケ小型皿       | 上総国分僧寺Ⅲ         | 1  | 6.9   |
|        | トレンチ | 在地土器     | カワラケ小型皿       | 上総国分僧寺Ⅲ～Ⅳ       | 4  | 19.4  |
|        | トレンチ | 在地土器     | カワラケ小型皿       | 大室1以前           | 25 | 113.0 |
|        | 表採   | 在地土器     | カワラケ中型皿       | 上総国分僧寺Ⅲ～Ⅳ       | 1  | 6.8   |
|        |      |          |               | 計               | 53 | 551.6 |



第7図 出土遺物(2)

僧寺Ⅻ期～Ⅼ期(12世紀末～14世紀まで)の時期であろう。2は全体形を知り得る在地系のカワラケ坏である。底面には回転糸切痕を残し、凹凸のある非常に粗い調整である。ロクロ成形後、内面の底は指によるナデが施されている。3～7はカワラケである。4は坏、5は中型皿、3・6・7は小型皿であろう。3は底面中央に穿孔がある。ヘラによるケズリが施され、回転糸切痕をわずかに残している。4～7の底面は回転糸切で、7を除き無調整である。8・9は瀬戸・美濃系の播鉢である。10は縄文時代の叩石であろう。楕円形の円礫の両端及び側縁に敲打痕がある。石材はチャート、重量は308.4gである。11・12は欠損した砥石である。石材は11が凝灰岩、重量33.6g、12が砂岩で重量は22.1gである。13は火打石である。石材は石英で、重量は3.9gである。小片のため図示しなかったもう1点も石材は石英であった。14の銅銭は北宋銭の「景德元寶」の模鑄銭であろう。表面の劣化が顕著である。重量は2.29g、「景德元寶」の初鑄年は1004年である。

以上、図示した遺物について記したが、小片で図示できなかったものの、産地や時期の判断がついたものとしては、極めて器厚の薄い伊勢型の鍋、瀬戸・美濃系陶器では祖母懷壺と思われるもの、天目茶碗、平碗、緑釉小皿、その他では常滑の甕、在地産の内耳鍋などが出土している。出土点数が少なく小片が多いものの産地や器種は多様である。カワラケについては、櫻井敦史による上総国分僧寺跡の分類を援用して記した(櫻井2009)。全体の点数が少ないためその様相は明確ではないものの、古瀬戸後様式Ⅳ期(1400年～1480年)を中心とし、瀬戸・美濃系陶器大窯第1段階期(1480年～1530年)が下限となるようで、カワラケは山木白船城跡出土の古瀬戸後様式Ⅳ期並行としたグループ(体部下位が絞れるもの)に酷似している(櫻井1997)。一応は、上総国分僧寺Ⅻ期～Ⅼ期(12世紀末～14世紀まで)に小ピーク、古瀬戸後様式Ⅳ期(1400年～1480年)に大ピークがあり、大窯1段階期(1480年～1530年)のものまでで終息を迎えるようである。なお、中世前期の上総国分僧寺Ⅻ期～Ⅼ期としたグループは、古瀬戸後様式Ⅳ期に近くなる可能性がある。瀬戸・美濃系陶器の分類については、藤澤良祐の分類を参考とした(藤澤2008)。

すでに記したように、出土遺物は小片で散発的な出土ではあったが、周辺には当該時期の中世遺構群が存在する可能性を示唆しており、しかも時期幅を伴う重層的な遺構群の存在が推測される。

#### 参考文献

- 櫻井敦史ほか 1997『山木白船城跡Ⅱ』財団法人市原市文化財センター
- 櫻井敦史 2009『第6節 10世紀末以降における土器変遷』『上総国分僧寺跡Ⅰ』市原市教育委員会
- 藤澤良祐 2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院





# 写 真 图 版





遺跡周辺の航空写真（昭和53年撮影）



調査地点遠景



トレンチ内の調査風景



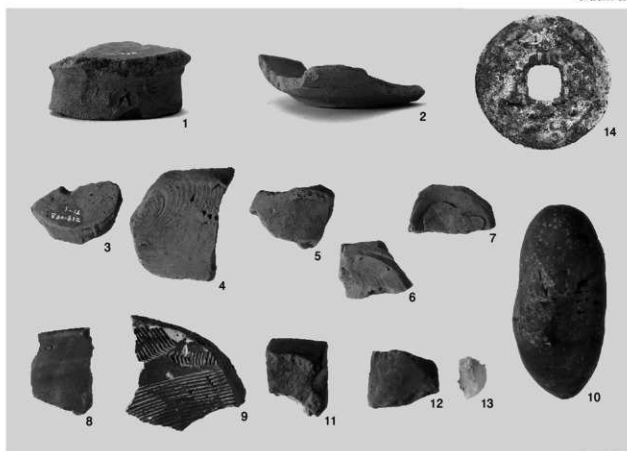
調査トレンチ



堆積土の状況



堆积土层



出土遺物

報告書抄録

| ふりがな           | いちはらしのうまんじょうあと・のうまいせきぐん                                                                  |                |      |                   |                                                     |                       |           |        |
|----------------|------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|------|-------------------|-----------------------------------------------------|-----------------------|-----------|--------|
| 書名             | 市原市能満城跡・能満遺跡群                                                                            |                |      |                   |                                                     |                       |           |        |
| 副書名            | 主要地方道五井本納線交通安全対策事業埋蔵文化財発掘調査報告書                                                           |                |      |                   |                                                     |                       |           |        |
| 巻次             |                                                                                          |                |      |                   |                                                     |                       |           |        |
| シリーズ名          | 千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告                                                                        |                |      |                   |                                                     |                       |           |        |
| シリーズ番号         | 第32集                                                                                     |                |      |                   |                                                     |                       |           |        |
| 編著者名           | 蜂屋孝之                                                                                     |                |      |                   |                                                     |                       |           |        |
| 編集機関           | 千葉県教育委員会                                                                                 |                |      |                   |                                                     |                       |           |        |
| 所在地            | 〒260-8662 千葉県千葉市中央区市場町1-1 TEL 043-223-4129                                               |                |      |                   |                                                     |                       |           |        |
| 発行年月日          | 西暦2019年11月15日                                                                            |                |      |                   |                                                     |                       |           |        |
| 所収遺跡名          | 所在地                                                                                      | コード            |      | 北緯                | 東経                                                  | 調査期間                  | 調査面積<br>㎡ | 調査原因   |
|                |                                                                                          | 市町村            | 遺跡番号 |                   |                                                     |                       |           |        |
| 能満城跡・<br>能満遺跡群 | 市原市能満<br>1.125番地地先                                                                       | 12219          | 098  | 35度<br>30分<br>53秒 | 140度<br>7分<br>46秒                                   | 20190603～<br>20190614 | 240㎡      | 道路建設工事 |
|                |                                                                                          |                |      | 世界測地系             |                                                     |                       |           |        |
| 所収遺跡名          | 種別                                                                                       | 主な時代           | 主な遺構 |                   | 主な遺物                                                |                       | 特記事項      |        |
| 能満城跡・<br>能満遺跡群 | 包蔵地<br>包蔵地<br>集落跡<br>城館跡                                                                 | 縄文時代<br><br>中世 |      |                   | 縄文時代石器<br><br>中世土師質土器・<br>瀬戸美濃系陶器・<br>砥石・火打石・<br>銭貨 |                       |           |        |
| 要約             | 標高約28mの広い台地の斜面部における調査である。能満遺跡群は縄文時代～中世の複合遺跡で、今回はわずかな調査面積ではあったが、中世後期を主体としてカワラケなどの遺物が出土した。 |                |      |                   |                                                     |                       |           |        |





千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第32集

市原市能満城跡・能満遺跡群

— 主要地方道五井本納線交通安全対策事業埋蔵文化財発掘調査報告書 —

---

令和元年11月15日発行

編集・発行

千葉県教育委員会

千葉県中央区市場町1-1

印刷

株式会社弘文社

市川市市川南2-7-2

